

犬感染症検査

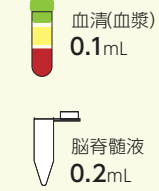
■ 犬ジステンパーウイルス (CDV)

● CDV のすべての検査はフェレットでも適応可能です。

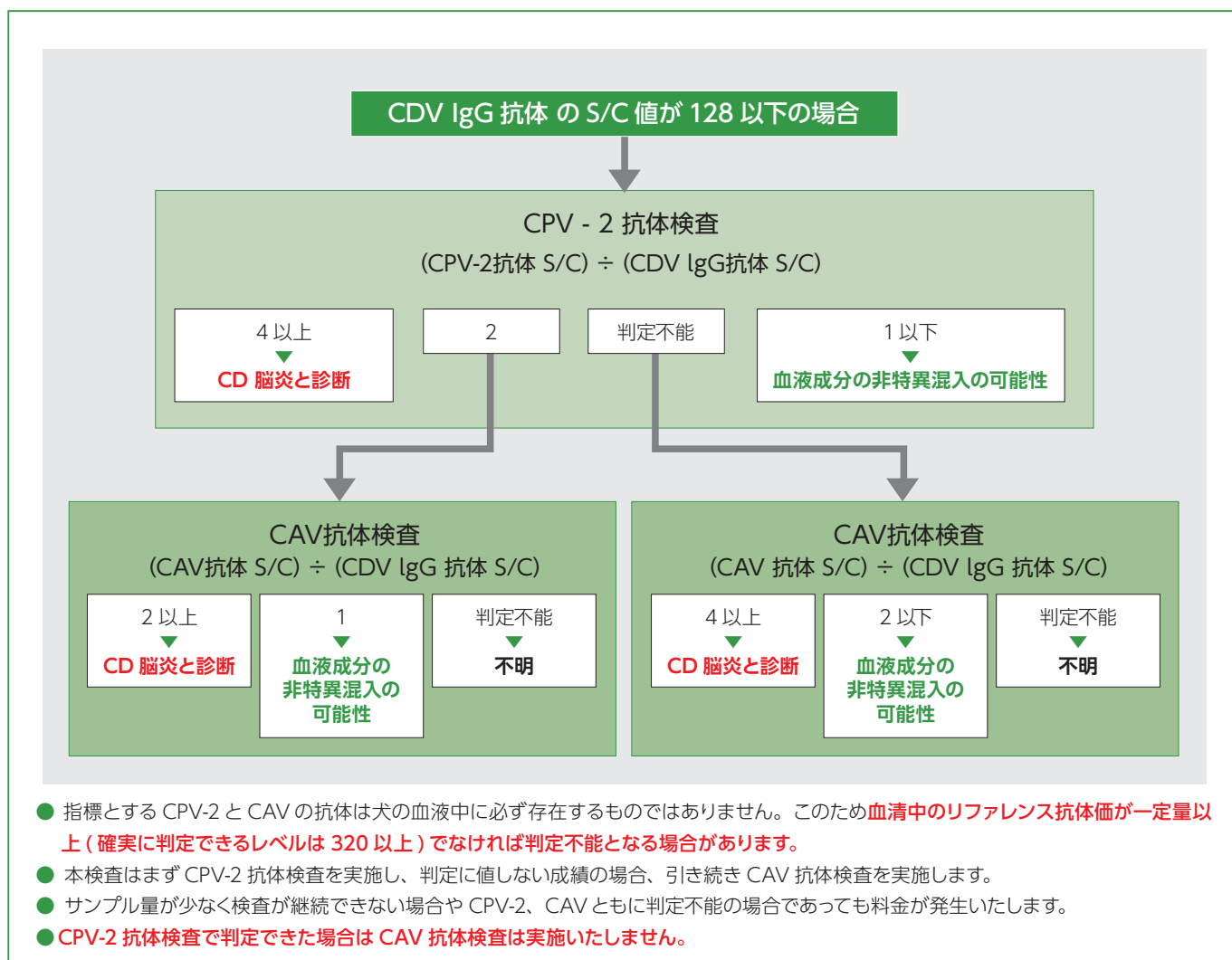
● ワクチン効果、防御能の判定には犬ワクチンセット (18ページ参照) をご利用ください。

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項
CDV 共通遺伝子★	鼻粘膜スワブ 糞便 結膜スワブ 適量	冷蔵	5日 以内	RT-PCR	- 特に犬ジステンパー (CD) の呼吸器や消化器症状など CD の初期症状を呈している例 (幼齢犬に多い) の診断に効果的です。 - 鼻汁、涙液、糞便は滅菌綿スワブで採材してください。 脳脊髄液からの本遺伝子の検出は特に急性脳炎 (幼齢犬に多い) で有効です。 成犬でよく観察される慢性脳炎や遅発性脳炎 (CD の初期症状を伴わない) の場合は急性期に比べるとやや検出率が低下します。 ワクチンの影響 一般的に CDV 生ワクチン接種後 1 ヶ月後ほどワクチン株が血液、分泌物、排泄物から検出されることがあります。 このような症例で陽性の場合は野外株遺伝子検査の追加をお勧めします。
	全血 (EDTA 処理) 0.5mL	冷蔵 禁冷凍			
	脳脊髄液 0.3mL	冷蔵			
CDV 野外株遺伝子	共通遺伝子検査で増幅された PCR 産物を使用します	FAX TEL	4日 以内	PCR-RFLP	CDV 共通遺伝子で検出された遺伝子が野外株かワクチン株かを多型分析検査にて識別します (共通遺伝子陽性の場合のみ検査をお受けします)。 - ご依頼の際は FAX またはお電話にてご依頼ください。(追加検査のご依頼は結果報告書到着から 7 日以内まで可能です。) 依頼書にて共通と野外株遺伝子両方ご依頼の際は共通遺伝子が陽性になった場合野外株遺伝子の検査を追加いたします。
CDV 中和抗体	血清 (血漿) 0.2mL	常温 冷蔵	7日 以内	NT	
CDV IgG 抗体	血清 (血漿) 0.05mL	常温 冷蔵	3日 以内	IP	CD の慢性または遅発性脳炎の診断のために血清と脳脊髄液 (CSF) の同時検査が効果的です。 - 血清抗体価 / CSF 中抗体価の値 (S/C 値) が 128 以下 の場合 CD 脳炎の診断基準となります。なお CDV 以外に起因し、S/C 値が 128 以下になる場合があります。 このため引き続きリファレンス抗体検査やアルブミン定量をお勧めします。 - リファレンス抗体追加の場合、本検査分を含め、血清 (血漿) 0.15mL、CSF 0.3mL が必要になります。 ワクチン未接種の幼齢犬を除き、血清中 IgG 抗体の単独検査は診断に結びつきません。 ワクチン未接種では以下の場合に感染が強く疑えます。 1 ヶ月齢 ▶ 5120 以上 2 ヶ月齢 ▶ 640 以上 3 ヶ月齢 ▶ 40 以上 4 ヶ月齢 ▶ 10 以上
	脳脊髄液 0.1mL				

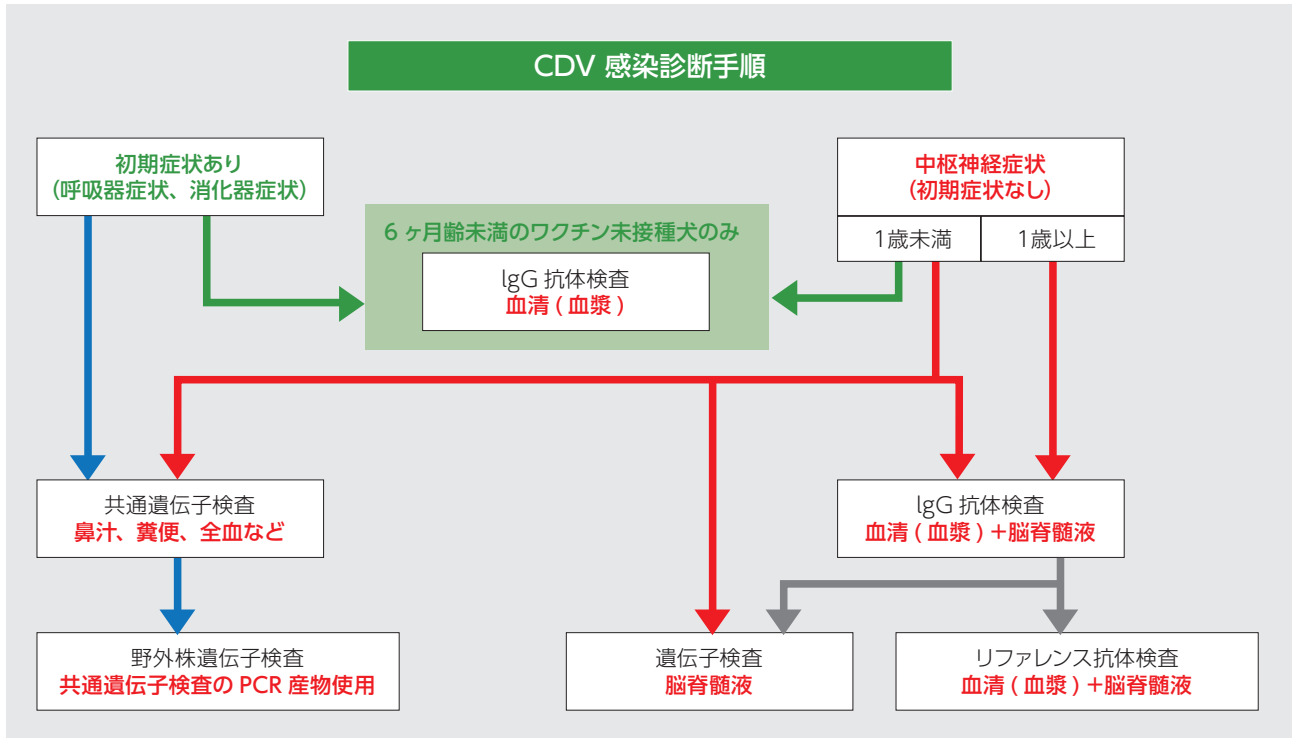
項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項
血清抗体価 / CSF 中抗体価の値 (S/C 値) が 128 以下の場合の確認試験					
リファレンス 抗体	上記 IgG 抗体検査 の残量を使用  血清(血漿) 0.1mL 脳脊髄液 0.2mL	FAX TEL	10日 以内	CPV-2 : HI CAV : NT	1. IgG 抗体の S/C 値が診断基準 (128 以下) になった場合、それが CD 脳炎によるものか CDV 以外に起因するもの (血液脳関門の非特異的破綻や CSF 採材時における血液の非特異混入) かの鑑別のための検査です。 2. 依頼書にて CDV IgG 抗体とリファレンス抗体を同時依頼された場合は、CDV IgG 抗体検査の結果が S/C 値 128 以下だった場合にリファレンス抗体検査を追加させていただきます。 3. サンプルは CDV IgG 抗体検査の残りを使用します。新たに採材したサンプルでは検査できません。 4. リファレンス抗体追加のご依頼は CDV IgG 抗体検査の結果報告書到着後 7 日以内に FAX またはお電話でご依頼ください。 5. 判定基準は下記の表を参照してください。 ワクチンの影響 ワクチン接種後 1 ヶ月以内および CPV、CAV 感染が疑われる症例での適応は好ましくありません。

【リファレンス抗体判定基準】



【CDV 感染診断手順】

下記の診断手順はあくまで一般的なものです。特に中枢神経症状については先進国において成犬での急性症例が少ないことを基準にしたものです。例外があることをご配慮ください。



【CDV 感染後の遺伝子、抗体および白血球数の推移】

この模式図は一般的なもので、必ずしもすべての症例にあてはまるとは限りません。特に死の転帰をとるような重篤な例では遺伝子の検出期間の延長や抗体上昇の遅延が起きることが多くみられます。

